

# HB通信

編集・発行 /  
一般社団法人  
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階  
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281  
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhg.org/

## つとむくんの 再審法の改正



つぶやき

9月26日、静岡地裁において袴田巖さんに無罪判決が言い渡されました。いわゆる「袴田事件」の再審です。この事件もですが、再審の在り方が今、問われています。袴田事件の再審決定は2014年3月27日に静岡地裁でされました。しかし、検察の抗告により再審が棄却され、それに対して弁護側が特別抗告を行い2023年に再審開始を認める決定がやってきました。そして再審が開始されこの9月26日に無罪判決が出されたのです。実に、再審決定から10年も経っています。判決では、検察・警察の証拠の捏造と自白調書の信憑性を指摘しました。ここまで裁判官が踏み込んで判決で述べたことは評価できます。

ただ、袴田さんが1966年に逮捕され、無罪判決が2024年に出来るまで58年も要しています。袴田さんの身体拘束期間は48年にも及びました。現在、袴田さんは88歳です。この現実をしっかりと見なければいけません。

この間「袴田事件」だけでなく、「免田事件」「財田川事件」「松山事件」などいくつかの再審が開始され無罪が言い渡されています。ただ、逮捕され無罪が確定するまでほとんどが30年以上かかっています。「むごい話」で済まされることではないです。しかも他の無罪判決が出された事件においても自白の強要や証拠不開示、再審決定に対しての検察の抗告など様々な課題が明らかになっています。そのため、取り調べ段階においては「取り調べの可視化」、裁判においては検察・警察が持っている証拠の全開示、再審決定後は速やかに再審が開始されるよう「検察の抗告」の禁止などが求められます。

この間の取り組みにより、取り調べの可視化においては少し前進しましたが、証拠の開示や検察の抗告など、まだまだ多くの問題を残しています。先に述べたように、冤罪を晴らすのに多くの年月がかかっています。それにより、その人の人生が奪われることとなります。検察・警察は自覚がないかもしれませんが大きな「権力」を持っているのです。そのことをもう一度自覚するとともに、相手が誰であろうと人権を守ること

をしっかりと意識してほしいと思います。

特に冤罪事件に関しては、被害を速やかに救済しなければなりません。そのためには「再審法」の改正が急がれます。

(一社) ひょうご部落解放・人権研究所  
事務局長 細田 勉

### 今号のもくじ

- ▶1面 …… つとむくんのつぶやき「再審法の改正」
- ▶2面 …… 人権セミナー第3回のご案内
- ▶3面 …… 本の紹介「ミライの源氏物語」
- ▶4面 …… 雑誌「ひょうご部落解放189号」  
／涌嶋克己さん展覧会のお知らせ

(一社) ひょうご部落解放・人権研究所 2024年度人権セミナー

## 《第3回》パレスチナ問題—ガザで起きていることと日本社会

講師：役重善洋さん（敬愛大学経済学部非常勤講師）

昨年10月7日のハマース等のガザ抵抗組織による大規模越境攻撃を契機に始まったイスラエル軍によるガザ攻撃は1年以上継続し、10月7日現在、4万1千人を超える住民の命が奪われています。2007年、イスラエルがガザに高さ8mの壁を築いたため、ガザの人々は自由に外と行き来できなくなりました。



申込ページ

今、保健・医療機関や電気・水道等のインフラも破壊され、病院や学校にもミサイルが撃ち込まれています。今世紀もっとも深刻だと言われる人道危機を私たちは日々目撃しています。

なぜこのような状況になったのか。パレスチナ問題を長年訴え続けてきた役重さんにお話を聞き、ジェノサイドと言わざるを得ないこの状況を世界はなぜ止められないのか、私たちに何ができるのか、一緒に考えたいと思います。

■日時：2024年12月14日（土）14：00～16：00（13：30受付開始）

■参加資料代：一般：1000円／定期購読（個人）・学生・賛助会員：500円  
正会員：無料 ※特別会員の方は無料クーポンをご利用ください。

■場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室（神戸市中央区山本通4-22-15）  
※オンライン配信有（zoomミーティング）

■定員：〔会場〕60人、〔オンライン〕90人

■申込方法

上記QRコードから申込ページへお入りいただけます。その他、お電話、メール等でもお申し込みいただけます。

■その他

- ・ご参加は、セミナーの趣旨に賛同する人に限ります。
- ・録音・録画や資料の二次利用などは固くお断りいたします。
- ・会場ではマスクの着用等、感染対策にご協力をお願いします。

### 《第3回》震災と人権（仮）

講師：増島智子さん

（被災地NGO協働センター）

日時：2025年2月15日（土）14～16時

場所：兵庫県立のじぎく会館

## 2025年度も開講！ひょうご人権総合講座及び人権教育実践講座

2024年度ひょうご人権総合講座及び人権教育実践講座には、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。2025年度の講座につきましては、みなさまが参加したくなるような講座内容を企画中です。どうぞ期待。

開催時期（予定）：ひょうご人権総合講座 2025年8月～12月の木曜日  
人権教育実践講座 2025年8月



## 本の紹介

## 『ミライの源氏物語』

山崎ナオコーラ著、淡交社、2023 年 3 月、1,760 円(税込)

今年の NHK 大河ドラマは、紫式部を主人公とした「光る君へ」。紫式部と藤原道長とのラブロマンスを軸に、平安中期の政治史や「源氏物語」誕生の背景などが描かれている。古い時代のお話なので、登場人物について分かっていることは少ない。そのため大胆にフィクションを交えたストーリーとなるわけだが、視聴者に“そんなアホな”と思わせない、説得力のあるものにできるかどうか、脚本家らの力量が問われることになる。

今回のドラマでは、「源氏物語」における設定や有名なエピソードを、主人公の人生や見聞きした出来事に落とし込んでいる。例えば、ドラマで描かれる若き日の藤原彰子（一条天皇の後）には、恐らく「源氏物語」の女三宮のイメージが重ねられている。また、紫式部が不義の子を産むが、これは藤壺が光源氏の子を、女三宮が柏木の子を産むエピソードを踏まえているのは間違いなかろう。ドラマを見る人が“これは「源氏物語」のあれだな”と楽しめるような仕掛けとなっていて、それはかなり成功していると思う。もっとも、「源氏物語」には、物語中では特に問題とされていない言動でも、現在の価値観からすると不適切にもほどがある、共感し難いということがいくつもあるが（例えば不同意性交から始まる恋愛とか）、そういった部分はドラマでは採用されていないようだ。現代人の多くが共感できないエピソードは、「源氏物語」から読者を遠ざける原因のひとつだろう。その問題に挑んだのが、小説家・山崎ナオコーラのエッセイ集『ミライの源氏物語』である。

山崎は「源氏物語」を平安時代の人と同じように楽しむためには、「言葉の壁」と「社会規範の壁」があるとし、「言葉の壁」は多くの研究者や小説家などにより乗り越える仕事が多くなされているが、「社会規範の壁」を乗り越える仕事は「まだあまりおこなわれていない」としている。ここでいう「社会規範の壁」とは、物語中の「現代のできごととして捉えるならば受け入れ難い描写」を成り立たせた当時の社会規範と、読者が生きている現代の社会規範とのギャップのことだ。このギャップに直面したとき、光源氏のこの行為は平安時代では問題ないなどと理解してモヤモヤしながらも不問に付したり、許容できないとして読むのをやめたりするのではなく、「ちょっと違う読み方をして」（壁を乗り越えて）、「面白い読書」にしていこうというのが、本書のねらいである。

本書では各章 1 テーマで、ルッキズム、ロリコン、マザコン、ホモソーシャル、貧困問題、トロフィーワイフ、ジェンダーの多様性、エイジズムなどを切り口として「源氏物語」について語る。本書冒頭には「『源氏物語』人物相関図」を挙げてあるので、誰が誰だか分からなくなったらここに戻ればよい。各章では、現代語訳を挙げてあるので、古文が苦手でも問題ない。

また、本書と同種の試みとして奥山景布子著『フェミニスト紫式部の生活と意見 現代用語で読み解く「源氏物語」』（集英社、2023 年 9 月）がある。ネット上に 2 人の対談が掲載されているので興味のある方は参照されたい（WEB マガジン「集英社学芸の森」掲載）。奥山は元研究者ということもあり、テキストを読み込み、最近の解釈も参照しながら詳しく論じている。両書のアプローチの違いを読み比べるのも面白い。ただ、「源氏物語」に不慣れな方は、山崎著を先に読むことをお勧めする。（ka）





機関誌『ひょうご部落解放』189号、ご好評につき増刷しました！

## 特集：トランスジェンダー差別を許さない

全国からたくさんのご注文をいただいています。トランスジェンダー差別について、読者の皆さんが考える一助となれば幸いです。



■特集：トランスジェンダー差別を許さない《もくじ》

- ・特集にあたって／編集部
- ・トランスジェンダーを排除する社会に抗して／高井ゆと里
- ・「女性の安全」をめぐる有害な「懸念」／飯野由里子
- ・パリ2024—女子ボクサーへの複合差別からトランス差別と「女性解放」を考える—／井谷聡子
- ・自分の中の差別からの解放～「“すべての人々が安心して生活できる”社会」の実現のために～／渡部京李
- ・トランスジェンダー差別を考える／仲間しゅん

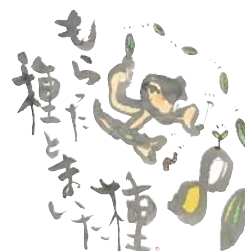


↑ご購入はオンラインショップから

## BB プラザ美術館 開館 15 周年企画展 『震災から 30 年 WAKKUN のもらった種とまいた種』

雑誌『ひょうご部落解放』表紙のイラストを描いてくださっているイラストレーターの涌嶋克己さん（WAKKUN）の展示会が開催されます。WAKKUN によるライブペインティングや展示室での友人ミュージシャンらによるライブなど関連イベントもあります。

- ▶会期 | 2024年12月3日（火）～2025年2月2日（日）
  - ・WAKKUN ライブペインティング：2025年1月17日（金）14:00～
  - ・坂田明 Solo ライブ：2025年1月14日（火）19:00～
  - ・友部正人 Solo ライブ：2025年1月27日（月）19:00～
- ▶開館時間 | 10:00-17:00（入館は16:30まで）
- ▶休館日 | 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）※年末年始（12/26-1/6）
- ▶入館料 | 一般 500（400）円／大学生以下無料
- ▶主催 | B B プラザ美術館、株式会社シマブンコーポレーション



『ひょうご部落解放』183号 表紙イラスト



↑詳細はBBプラザ美術館HPでご確認ください。

## 事務局から

- 畑は、秋・冬野菜の収穫に向け衣替えをしています。寒い日の食事が進む、鍋の季節になっていきます。この鍋に必要な野菜が、天候の不順にも負けず頑張ってくれていることを祈りながら間引きをしているこの頃です。（Ho）
- 妻は最近骨折して松葉杖をついていますが、通勤電車では優先席でもなかなか席を譲ってもらえません。「日本人は親切だ」とか最近矢鱈と言われ
- っていますが、まあこんなもんです。（ka）
- 今年1月の能登半島地震、そして9月の大水害と「私たちは見捨てられている」という現地の声。新型コロナ対策でもそうだが、首長選は住民の生活と命に直結していると痛感する、知事選ただ中のこの頃。（H）
- もうすぐ長女のいもほり遠足があります。貸切りバスでお弁当を持って行くとのこと。リクエストにお応えすべく、人生初！キャラ弁の練習中です♡（ひ）

※ QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

HB 通信の無料メール配信をご希望の方は、  
研究所までメールアドレスをお送りください。→

